

教員養成系学部における「情報リテラシ教育」の現状

山 本 広 志

地域教育文化学部生活総合学科

(平成19年10月1日受理)

要 旨

教員養成課程を含み、十年ほど前からほとんどの大学で導入された情報リテラシ教育だが、2006年度に大きな転機を迎えることになった。高校で情報が必修化された学年が2006年度から大学に入学して来たためである。そこで大学の教員養成課程で情報リテラシ教育の現状を知るため、国立の教員養成系学部・大学から所在地の都道府県番号が奇数のものを抽出し、公開されているシラバス(授業計画)を調査した。その結果、2006年度と2007年度も依然として多数の大学でマイクロソフトの操作を主な内容とする情報リテラシの授業が必修で行われているということが分かった。また、依然として専門が情報とかけ離れた授業担当教員が数多く見受けられる。

§ 1. 序

1980年前後からパーソナルコンピュータ(パソコン)が相次いで発売され、大学でも徐々に工学部等の専門的な授業に取り入れられていった。また1984年に日本のインターネットの前身であるJUNET(Japan University Network)が発足し、これも同様に専門的な授業に少しずつ取り入れられていった。1991年にJUNETがインターネットに移行し、日本でもインターネットの商業利用が始まった。1994年には一般の個人が有料でインターネットを利用できるようになったことから企業のみならず個人にまでインターネットが爆発的に普及した。

この頃から専門に依らず大学生全般がパソコンとインターネットを使えるようになるべきだという認識が急速に広まり、情報リテラシ教育の授業が学部を問わず文科系にまで開設されることが当たり前となった。この変化があまりにも急激だったため、授業の質の点では大いに問題があった。授業の数が急激に増加すれば当然教員の数が不足する。結果として、パソコンを少々操作できる程度の専門外の教員が多数授業を担当することになった。当時は情報教育=操作教育であるから教員に専門的能力は必要ないという誤った認識が広まっていた。こうしたことから情報リテラシの授業内容は操作教育中心のものが多く、その弊害が度々指摘されている。¹⁻⁶⁾

教員養成課程もその例外ではない。各大学はこぞって教員養成課程にも情報リテラシ教育を導入した。さらに、1998年の文部省令「教育職員免許法施行規則」改定によって教員免許の取得に「情報機器の操作」2単位が義務づけられることになり、教員養成課程においては情報リテラシ教育が必修となった。

また、情報リテラシ教育導入当時の教材は学部によらずほとんどがマイクロソフトだった。マイクロソフトは内部がブラックボックスであり、本質的に教材には適していない。さらに、マイクロソフトは品質が悪くしばしば誤作動や不可解な現象が起り、また作動不良で停止してしまうことも珍しくない。⁷⁾

とは言え、情報教育に関して個別の事例を紹介した報告は少なからずあるものの、多数の大学の授業内容を比較検討した報告は存在せず、当時も今も全体像は必ずしも明確とは言えない。

今日情報リテラシ教育の導入期から十年余が経過し、社会の状況はさらに大きく変化している。その中で大学の情報リテラシ教育が最も影響を受けたのは1999年の高等学校学習指導要領改定⁸⁾であろう。これによって高等学校普通科で情報の授業が必修となった。新学習指導要領が2003年度に完全実施され、学年進行で2006年度から大学1年生は高等学校で情報を学んできたことが前提となった。このことから大学の情報リテラシ教育は2006年度が節目の年と言える。2006年度以降の大学の情報リテラシ教育がどうなっているかに興味を持たれる。

§2. 調査方法

今回は大学の中でも教員養成課程に注目して情報リテラシ教育の授業内容調査を行った。調査対象は国立の教員養成系大学・学部の中から、所在地の都道府県番号⁹⁾が奇数のものを抽出した。調査対象大学は北海道から沖縄まで全国で24あった。ここで教員養成系とは、2001年の「国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会」(通称「在り方懇」)の報告¹⁰⁾まで教員の計画養成を行っていた大学・学部を指すものとし、現在も計画養成を継続しているかどうかは問わないこととした。もちろん、計画養成を中止しても開放制による教員養成は行っている。

調査は対象大学・学部がインターネットで公開しているシラバス(授業計画)を2006年度と2007年度に各1回ずつ調査し、シラバスの中から主に教員養成系学部の学生が受講する、主としてパソコンの操作方法を教えている実習/演習授業全てを対象とした。パソコンの操作とは、OS(マイクロソフト Windows)、ワープロ(ワード)、表計算(エクセル)、プレゼン(パワーポイント)、メール、ブラウザ等の操作を指す。1990年代の情報リテラシ導入期にはこれらが定番であった。教員養成系学部の学生が受講する授業は必ずしも当該学部開設の授業とは限らず、教養教育や共通教育等の授業も含まれる。そしてシラバスの記載から授業科目名、必修または選択の別、単位数、マイクロソフト Windows を使用しているか、ワープロの操作方法を教えているか、表計算の操作方法を教えているか、プレゼンの操作方法を教えているか、メールの操作方法を教えているか、ブラウザの操作方法を教えているか、授業1コマの担当教員数は何人かを記録した。ここで、ブラウザの操作方法にはサーチエンジンによる情報検索も含んだ。シラバスの掲載内容が不十分の場合は、各大学が公開している他の情報から可能な限り補完した。

教員養成系学部における「情報リテラシ教育」の現状

また、各大学がインターネットで公開している研究者総覧等により、授業担当教員名から各教員の専門分野についても調査を行った。ただ、各教員の専門分野名は基本的に自己申告であるため、呼称や広狭が千差万別で統一が取れない。教員によっては一般的な呼称ではない自己主張を含んだ専門分野名を標榜している場合もある。科学研究費補助金等で使用される研究分野コードに当てはめることも試みたが、複数の項目にまたがったり当てはまる項目がなかったりで上手く行かない。このため統一を断念し、各研究者の自己申告による記載を元にして分かりにくい呼称を一般的な呼称に置き換えた。教員自身が複数の専門分野を記載している場合は、経歴や業績一覧から本人の背景となっていると思われる専門分野を選んだ。担当教員の専門分野は、専任教員の場合研究者総覧等の公開情報でほぼ全員調べることができた。専門分野が不明だったのは大半が非常勤講師の場合である。

§ 3. 結果及び検討

2006年度と2007年度の調査結果を表1にまとめた。2006年度と2007年度で科目名や開講の有無に変更がある場合は科目名欄に「/」を記載した。「/」の左が2006年度、右が2007年度を示す。以降の各欄においても2006年度と2007年度に違いがある場合は「/」の左に2006年度、右に2007年度を記載した。

表1 教員養成系学部・大学において、主としてパソコンの操作方法を教えている授業（2006/2007）

表の見方 各欄に「/」がある場合は2006年度と2007年度に違いがある。「/」の左が2006、右が2007。「/」がない場合、2006年度と2007年度は同一。科目名や開講の有無に変更がある場合は科目名欄に「/」がある。

大学名	主としてパソコンの操作方法を教えている授業の科目名	必修または選択	単位	授業内容						担当教員数	担当教員の専門分野			
				MSWindows使用	ワープロ操作	表計算操作	プレゼン操作	メール操作	ブラウザ操作					
札幌校	情報機器の操作 A	必修	2	△	○	○	○	-	-	1	技術教育			
	情報機器の操作 B			○	○	○	○	-/○	-	13	心理 / 心理、教育心理、心理			
	情報機器の操作 D			△	○	○	-	○	○	1	看護			
	情報機器の操作 E			△	○	○	-	○	○	1	看護			
	情報機器の操作 F			○	○	○	○	○	○	5	被服、不明、経済、電気、生物			
	情報機器の操作 G			○	○	○	○	○	○	4	社会学、被服、電気、未定			
	情報機器の操作 H			△	○	○	-	○	○	1	国語教育 / 不明			
	情報機器の操作 i			シラバス白紙 /						1	歴史			
	情報機器の操作 J			△	○	○	-	-	○	6	数学、数学、数学教育、数学、数学、数学			
	情報機器の操作 K			△/○	○	○	○	○/-	○	○	1	理科教育		
	情報機器の操作 L			△/○	○	○	○/-	-	-	○/-	1	英語教育		
北海道教育	情報機器の操作（人間発達専攻） a	必修	2	○/△	○	○	-	○		不明	教育心理、他			
	情報機器の操作（人間発達専攻） b			○	○	-	-	○	○	1	教育社会学			
	情報機器の操作（人間発達専攻） c			○/△	○	-	-	○/-	○	1	障害児教育			
	情報機器の操作（国際文化協力） a			○	○	○	○	○	○	1	不明			
	情報機器の操作（国際文化協力） b			○	○	○	-/○	○	○	1	不明			
	情報機器の操作（国際文化協力） c			○	○	○	-/○	○	○	1	不明			
	函館校			情報機器の操作（地域創世専攻） a	必修	2	○	○	○	○	○	○	1	不明
				情報機器の操作（地域創世専攻） b			○	○	○	○	○	○	1	不明
				情報機器の操作（地域創世専攻） c			○	○	○	○	○	○	1	不明
				情報機器の操作（環境科学専攻） a			△	○	○	○	○	○	1	化学
				情報機器の操作（環境科学専攻） b			△	○	○	○	○	○	1	生物 / 不明
情報機器の操作（環境科学専攻） c		授業内容白紙 /						1	化学 / 不明					
情報機器の操作（環境科学専攻） d		授業内容白紙						1	地学 / 化学					

大学名	主としてパソコンの操作方法を教えている授業の科目名	必修または選択	単位	授業内容					担当教員数	担当教員の専門分野				
				MSWindows使用	ワープロ操作	表計算操作	プレゼン操作	メール操作			ブラウザ操作			
北海道教育	旭川校	必修	2	情報機器の操作 A / A1	△	○	○	○	○	○	1	機械		
				情報機器の操作 B / A2	△	○	○	○	○	○	1	土木史 / 特別支援教育		
				情報機器の操作 C / B	△	○	○	○	○	○	1	国語教育		
				情報機器の操作 D / C	△	○	○	○	○	○	1	言語		
				情報機器の操作 E / D1	△	○	○	○	○	○	1	歴史		
				情報機器の操作 F / D2	△	○	○	○	○	○	1	社会学		
				情報機器の操作 G / E	△	○	○	○	○	○	1	情報 / 数学		
				情報機器の操作 H / F2	△	○	○	○	○	○	1	生物化学		
				情報機器の操作 i / F1	△	○	○	○	○	○	1	物理		
				情報機器の操作 j / G	△	○	○	○	○	○	1	情報		
				情報機器の操作 K / H3	△	○	○	○	○	○	1	スポーツ栄養学		
				情報機器の操作 L / H1	△	○	○	○	○	○	1	声楽		
	情報機器の操作 M / H2	△	○	○	○	○	○	1	美術教育					
	釧路校	必修	2	情報機器の操作 A	○	○	○	○	○	-	1	情報		
				情報機器の操作 B	○	○	○	○	- / ○	-	1	電気 / 情報		
				情報機器の操作 C	○	○	○	○	○ / -	-	1	情報 / 電気		
				情報機器の操作 D	○	○	○	○	-	-	1	電気		
				情報機器の操作 E	○	○	○	○	-	-	1	数学教育		
情報機器の操作 F				○	○	○	○	○	-	1	美術教育			
情報機器の操作 G				△	○	○	○	○	○	1	化学			
情報機器の操作 H				○	○	○	○	-	-	1	日本史			
岩見沢校	必修	2	情報機器の操作 a	△	○	○	-	○	○	1	音楽			
			情報機器の操作 b	△	○	○	-	○	○	1	音楽			
			無し / 情報機器の操作 c	△	○	○	○	○	○	1	不明			
			情報機器の操作 f	△	○	○	○	- / ○	- / ○	1	スポーツ教育 / スポーツ生理			
			情報機器の操作 g	△	○	○	-	○	○	1	スポーツ心理 / 健康スポーツ			
岩手	必修	2	情報機器の操作 h	△	○	○	○	-	-	1	運動生理学			
			情報基礎 / 非公開	△	○	○	○	○	○	2	物理、情報			
秋田	必修	2	情報処理入門 A	△	○	○	-	○	○	1	美術			
			情報処理入門 B	○	○	○	○	○	○	1	被服			
			情報処理入門 C	○	○	○	-	○	○	1	言語			
			情報処理入門 D	△	○	○	-	○	○	1	情報			
			情報処理入門 E	○	○	○	-	○	○	1	情報			
福島			情報処理 101	○	○	○	○	○	○	1	社会システム工学			
			情報処理 102	○	○	○	-	○	○	1	情報			
			情報処理 103	○	○	○	- / ○	○ / -	○	1	情報			
			情報処理 104	○	○	○	-	○	○	1	不明			
			情報処理 105	○	○	○	○	- / ○	○	1	情報			
			情報処理 106	○	○	○	-	○	○	1	情報			
			情報処理 107	○	○	○	○	○	○	1	社会システム工学			
			情報処理 108	○	○	○	○	-	○	1	福祉工学			
宇都宮	必修	2	情報処理基礎	○	○	○	-	○	○	1	教育学			
			情報処理基礎	○	○	○	-	○	○	1	不明			
			情報処理基礎	○	○	○	-	○	○	1	不明			
埼玉	必修	2	情報基礎	△	○	○	○	○	○	1	教育学			
			情報基礎 / 無し	△	○	○	-	○	○	1	情報			
東京学芸			2	情報処理	△	○	○	○	○	○	1	情報		
				情報処理	○ / △	○	- / ○	-	○	-	1	情報		
				情報処理	△	○	○	○	○	○	1	教育学		
				情報処理	○	○	○	○	-	-	1	物理		
				/ シラバス白紙										
				情報処理	○	○	○	○	-	○	○	1	古典文学	
				情報処理	△	○	- / ○	○	○	○	1	ヒューマンインターフェース / 障害児教育		
				情報処理	△	○	○	○	- / ○	- / ○	1	物理		
				情報処理	△	○	○	○	-	○	1	社会		
				/ シラバス白紙										
				情報処理	△	○	○	-	○	○	1	数学		
				情報処理	△	○	○	○	○	○	1	数学 / 地理		
				情報処理	○	○	○	○	-	-	1	美術 / 理科教育		
				/ シラバス白紙										
				情報処理	△	○	○	- / ○	○	○	1	生物		
				情報処理	△	○	○	○	○	○	1	情報 / 不明		
				情報処理	△	○	○	○	○	○	1	数学 / 不明		
				シラバス白紙										
				情報処理	△	○	○	○	○	○	1	教育学		
				情報処理	△	○	○	○	○	○	1	化学		
				情報処理	△	○	○	○ / -	○	○	1	技術教育		
				情報処理	△	○	○	○	- / ○	○	1	情報 / 教育心理		
				情報処理	△	○	○	○	- / ○	- / ○	1	臨床心理 / 社会学		
				情報処理	△	○	○	○	○	○	1	科学教育 (情報系) / 文化財科学		
				情報処理	△	○	- / ○	○	○	○	1	情報 / 社会学 (マス・コミュニケーション)		
				情報処理	△	- / ○	○	○	○	○	1	科学教育 (情報系)		
				情報処理	△	○	○	○	○ / -	○	1	柔道 / 保健		
				無し / 情報処理										
				/ シラバス白紙										
				新潟		2	情報教育論	○	○	○	-	○	○	4
情報教育論	○	○	○				-	○	○	4	物理、宇宙物理、教育学、材料力学			
情報教育論 / 無し	○	○	○				-	○	○	4	経済、国語教育、数学教育、運動生理学			
金沢		2	情報処理基礎	○	○	○	○	○	○	5	教育学、情報、図書館職員 3名			
			情報処理基礎	○	○	○	○	○	○	5	情報、情報、図書館職員 3名			

教員養成系学部における「情報リテラシ教育」の現状

大学名	主としてパソコンの操作方法を教えている授業の科目名	必修または選択	単位	授業内容						担当教員数	担当教員の専門分野		
				MSWindows使用	ワープロ操作	表計算操作	プレゼン操作	メール操作	ブラウザ操作				
山梨	情報科学入門及び実習	必修	2	△	○	○	-	○	-	2	数学、地質		
	情報科学入門及び実習			○	○	○	○	○	-	2	教育工学、舞踊学		
	情報科学入門及び実習			○	○	○	○	○	-	2	人文地理、数理物理		
	情報科学入門及び実習			○	○	○	-	○	-	2	数学、数学		
	情報科学入門及び実習			○	○	○	-	○	-	2	プラズマ科学、化学		
岐阜	情報教育Ⅰ	必修	2	△	○	○	○	○	○	1	画像情報処理		
	情報教育Ⅰ			△	○	○	○	○	○	1	教育工学		
	情報教育Ⅰ			△	○	○	○	○	○	1	非公開／林産学		
	情報教育Ⅰ			△	○	○	○	○	○	1	非公開／電気工学		
愛知教育	情報教育入門Ⅰ／無し	必修	2	○	-	-	-	○	○		非公開		
	無し／情報教育入門Ⅰ			△	○	-	-	○	○	2	情報、不明		
	無し／情報教育入門Ⅰ			△	-	-	○	○	○	2	不明、教育工学		
	無し／情報教育入門Ⅰ			△	○	-	-	○	○	2	情報、パソコンインストラクター		
	無し／情報教育入門Ⅰ			△	○	-	-	○	○	2	情報教育、不明		
	無し／情報教育入門Ⅰ			△	○	-	-	○	○	2	不明、情報		
	無し／情報教育入門Ⅰ			△	○	-	-	○	○	2	教育工学、不明		
	無し／情報教育入門Ⅰ			△	○	-	-	○	○	2	不明、教育工学		
	無し／情報教育入門Ⅰ			△	○	-	-	○	○	2	知能情報学、パソコンインストラクター		
	無し／情報教育入門Ⅰ			△	○	-	-	○	○	2	認知科学、不明		
滋賀	メディアツール活用法	必修		○	○	○	○	○	○	不明	教育工学		
大阪教育	情報処理入門	選択必修	2	○	○	○	○	○	○	21	制御工学、情報／情報		
	情報処理入門			△	○	○	○	○	○	31	情報、制御工学、教育工学／教育工学		
	情報処理入門			△	○	○	○	○	○	1	知能情報工学		
	情報処理入門			○	○	○	○	○	○	1	知能情報工学		
	情報処理入門			○	-	○	○	-	○	-	○	1	制御工学
	無し／情報処理入門			△	○	○	○	○	○	○	1	物理	
	家庭科情報機器の操作A			△	○	○	○	-	○	-	1	被服	
	理科情報メディア演習			△	○	○	○	-	-	○	2	科学教育、科学教育／生物、科学教育	
	理科情報メディア演習／無し			△	○	○	-	○	-	○	1	天文学	
	情報機器の操作			○	○	○	○	-	-	○	1	木材加工	
奈良教育	情報機器の操作	必修	2	○	-	○	○	-	-	1	美術教育		
	情報機器の操作			△	○	○	-	-	-	1	数学		
	情報機器の操作			○	-	○	○	-	-	1	地理		
	情報機器の操作			○	○	○	○	○	○	1	情報メディア教育		
鳥取	情報リテラシ	必修	2	○	○	○	○	○	○	1	電子工学		
	情報リテラシ			○	○	○	○	○	○	1	英文学／技術教育		
	情報リテラシ			△	○	○	○	○	○	1	情報教育		
岡山	情報処理入門(情報機器の操作を含む)	必修	2	△	○	○	○	○	-	1	情報		
	情報処理入門(情報機器の操作を含む)			○	○	○	○	○	-	○	1	教育工学／数学	
	情報処理入門(情報機器の操作を含む)			○	○	○	○	-	○	○	1	物理／情報	
	情報処理入門(情報機器の操作を含む)			○	○	○	-	○	○	1	技術教育／機械工学		
	情報処理入門(情報機器の操作を含む)			○	○	○	-	○	○	1	教育臨床学		
	情報処理入門(情報機器の操作を含む)			○	○	○	-	○	○	2	画像工学、数学／教育システム工学、情報		
	情報処理入門(情報機器の操作を含む)			○	○	○	-	○	○	1	数学教育／学習開発実践学		
山口	情報処理演習	必修	2	○	○	○	○	○	-	1	国文学		
	情報処理演習			○	○	○	-	○	○	1	情報／教育工学		
	情報処理演習			○	○	○	○	○	○	2	超高層物理、電子工学		
	情報処理演習			○	○	○	-	○	○	1	計算機科学		
香川	マルチメディア(Ⅰ)非公開	2									非公開		
	マルチメディア(Ⅱ)非公開			△	○	○	-	○	○	1	情報		
	マルチメディア(Ⅲ)非公開			○	○	○	○	○	-	1	情報		
	マルチメディア(Ⅳ)非公開			△	○	○	-	○	○	1	材料科学		
	マルチメディア(Ⅴ)非公開												非公開
高知	情報処理Ⅱ	必修	2	○	○	○	○	○	○	21	言語情報処理、情報／情報		
	情報処理Ⅱ			○	○	○	○	○	○	1	半導体工学		
	情報処理Ⅱ			○	○	○	○	○	○	1	社会科教育		
	情報処理Ⅱ			△	○	○	○	○	○	1	鉱物学		
	情報処理Ⅱ			△	○	○	○	○	○	1	家庭科教育		
	情報処理Ⅱ			△	○	○	○	○	○	1	超音波計測		
佐賀	情報基礎演習Ⅰ	必修	1	△	○	-	-	○	○	1	都市地理学		
	情報基礎演習Ⅰ			△	○	-	-	○	○	1	制御工学		
	情報基礎演習Ⅰ			○	○	○	-	○	○	1	心理		
	情報基礎演習Ⅰ			○	○	○	○	○	○	1	数学／数学教育		
	情報基礎演習Ⅰ			○	○	○	○	-	○	1	地学		
情報基礎演習Ⅱ	選択		○	○	○	-	-	-	1	化学			

大学名	主としてパソコンの操作方法を教えている授業の科目名	必修または選択	単位	授業内容						担当教員数	担当教員の専門分野	
				MSWindows使用	ワープロ操作	表計算操作	プレゼン操作	メール操作	ブラウザ操作			
熊本	情報基礎A1	必修	1	○/△	○	-	○	○	○	○	12	電子工学 / 電子工学、電力工学
	情報基礎A2 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	情報
	情報基礎A3 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	電気工学
	情報基礎A4 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	宇宙物理
	情報基礎A5 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	教育学
	情報基礎A6 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	情報
	情報基礎A7 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	制御工学
	情報基礎A8 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	生体画像処理
	情報基礎A9 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	不明
	情報基礎A10 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	生体画像処理
	情報基礎A11 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	電子工学
	情報基礎A12 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	宇宙物理
	情報基礎A13 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	電子工学
	情報基礎A14 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	電子工学
	情報基礎A15 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	2	教育学、教育学
	情報基礎A16 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	教育学
	情報基礎A17 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	情報
	情報基礎A18 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	不明
	情報基礎A19 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	制御工学
	情報基礎A20 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	不明
	情報基礎A21 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	電気工学
	情報基礎A22 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	生体画像処理
	情報基礎A23 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	情報
	情報基礎A24 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	電気工学
	情報基礎A25 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	情報
	情報基礎A26 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	情報
	情報基礎A27 / 非公開			○	○	-	○	○	○	○	1	教育学
宮崎	シラバス非公開											
琉球	情報科学演習		2	○	○	○	-	○	○	○	1	教育学
	情報科学演習 / 無し			○	○	○	○	-	○	○	1	教育情報科学

必修または選択の別や単位数は公開情報をできる限り調べたが、それでも不明の場合は空欄になっている。なお必修または選択の別が必修となっても、同名授業の別コマで他の教員が異なる内容を教えている場合があるため、必ずしも記載の授業内容を受講しなければならないということにはならない。

表1の授業内容で「MS Windows 使用」の欄が「○」になっているのは、シラバスからマイクロソフト Windows 使用が確認できることを示す。「△」になっているのは、OS の種類が断定できない場合を示す。シラバスには会社名や商品名の記載を避ける場合があるが、実際には表1の授業のほとんどがマイクロソフト Windows を使用していると思われる。マイクロソフト Windows 以外の OS を使用していることが明確な操作教育の授業は1つもなかった。表2にこの集計結果を示す。序で述べたようにマイクロソフトは内部がブラックボックスであり、本質的に教材には適していない。Linux 等オープンソー

表2 MS Windows を使用している授業の割合

	MS Windows 使用が明確な授業	MS Windows を使用している可能性が高い授業	計
2006 年度	62%	38%	100%
2007 年度	50%	50%	100%

表3 実施している授業内容

	ワープロ操作	表計算操作	プレゼン操作	メール操作	ブラウザ操作
2006 年度	95%	80%	72%	84%	82%
2007 年度	97%	91%	66%	88%	84%

教員養成系学部における「情報リテラシ教育」の現状

スの優れた教材があるにも関わらず、依然としてマイクロソフト Windows が教材として使われ続けている実態が明らかになった。

表1の授業内容で「ワープロ操作」「表計算操作」「プレゼン操作」「メール操作」「ブラウザ操作」の各欄は、シラバスでそれぞれのソフトウェアの操作方法を教えていることが確認できた場合は「○」、確認できない場合は「-」が記載されている。表3にこの集計結果を示す。それぞれのソフトウェアの操作方法が66%～97%の高率で満遍なく教えられているということが分かった。

以上の結果から、調査対象24大学のうちシラバス非公開の宮崎大学を除く23大学全てに教員養成系学部の学生が受講する、主としてパソコンの操作方法を教えている実習／演習授業が存在するということが分かった。これらの大半は1年生が受講することになっており、既に高校で「情報」を受講済の学生が大学でも同様の授業を再び受講するという結果になっている。情報リテラシ科目の導入期から十年余過ぎた現在でも、大学が時代の変化に対応できていない現実が明らかになった。このことによる教員、学生双方の時間や労力の無駄は計り知れない。

序で述べたように、このことは大学だけの責任とも言えない。1998年の文部省令「教育職員免許法施行規則」改定により、教員免許の取得に「情報機器の操作」2単位が義務づけられた。確かに、過渡期の当時としては義務化が有効に働いた面はある。しかしこの規定は今日に至るまでそのまま継続している。高校で情報が必修化された時点で大学では必修を撤廃すべきだったのではないだろうか。結果として「情報機器の操作」必修が大学の対応を遅らせ、過渡期の操作教育が延命されてしまっている。

こうした政策上の問題はあがあるが、もちろん責任の過半は大学にあると考えなければならない。「情報機器の操作」が必修であっても、マイクロソフト Windows、ワード、エクセル、パワーポイント、メール、ブラウザの操作といった十年前の定番の授業を続けるべき理由は何もない。やる気さえあれば高校と重複するこれらの操作教育を除外し、意味のある授業に変更していくことができる。大学で単なる操作教育が一定の役割を果たした時代は疾うに過ぎ去ったと筆者は考えている。

ただ、大学が全く何も努力をしていないという訳ではない。表1に含まれてはいないが、調査の過程で1990年代の定番を脱している授業も少なからず見受けられた。UNIX系OSを用いて、単なる操作教育ではなく原理の理解につながる内容を取り入れている授業がその代表例である。

しかしながら多くの授業が情報倫理の追加といった小規模の変更だけで根本的な授業内容変更には手を付けずにいるのは、教員の資質

表4 担当教員の専門分野

	情報系	情報系以外の理工系	その他の分野	不明・未定・非公開
2006年度	27%	39%	26%	8%
2007年度	23%	32%	31%	13%

の問題が大きな原因と考えられる。表1で授業担当教員の専門分野に注目すると、実に多岐に渡っている。特に北海道教育大学、東京学芸大学といった教員養成単科大学に、情報と専門のかけ離れた担当教員が目立つ。表4にこの集計結果を示す。専門が情報系の教員は3割に満たず、文系等専門がかけ離れたその他の分野の教員が3割程度も担当しているとい

うことが分かった。なお、ここでの「情報系」には、教育工学や情報教育も含めて集計した。

1990年代の急激な情報リテラシ科目導入の際に専門外の教員を動員せざるを得なかったという事情は分からないでもない。しかし現在もそのままというのはどうだろうか。専門外の教員であれば大半は表面的な基本操作や情報倫理程度しか教えることができない。情報セキュリティにしても、根本的な原理を理解していなければ単なる棒読みで終わってしまう。

この点は総合大学の方が規模が大きい分専門に近い教員を集めやすい。例えば熊本大学では情報リテラシ科目の全てを総合情報基盤センターの教員と非常勤講師が担当していた。

また、表1で担当教員数に注目すると、一部の大学では1コマの授業を数人の教員で分担して担当する、いわゆるリレー方式が目立つ。表5にこの集計結果を示す。担当教員が複数いることがシラバスで確認できた授業は2006年度に12%、2007年度に16%あった。リレー方式は情報リテラシ科目導入期に教員間の負担の公平や教員の拒否感緩和のために行った結果と考えられるが、情報リテラシの実習でリレー方式が良い効果を持つとは考えにくい。

表5 担当教員が複数いる授業の割合

	担当教員が複数いる授業
2006年度	12%
2007年度	16%

ところで、前述の「情報機器の操作」義務化は教育職員免許法施行規則の規定であるから、教員免許を取得しない学生には影響しない。にもかかわらず、教員養成系学部で教員免許の取得を前提としない課程（いわゆるゼロ免コース）でも情報リテラシ科目を卒業の必修科目としている大学が実に多い。旧態依然の授業内容と必然性のない必修のため、筆者の所属する大学では時折学生から不満の声が聞かれた。

必修を止められない隠れた理由として、大学によっては設備の問題があるかも知れない。パソコンを何十台も備えた実習室を複数設置することに各大学ともかなりの金額を注ぎ込んでいる。減価償却なりリース期限の時期がカリキュラム改定と上手く噛み合えば良いが、時期が合わなかったり連携が取れていなかったりで「無難」な方法として必修を継続している可能性がある。選択科目にして履修者が減少すれば設備の無駄を指摘されかねない。

ゼロ免コースで情報リテラシを選択科目化しても、教育職員免許法施行規則が改正されない限り計画養成では「情報機器の操作」が必修であることに変わりはない。そこで滋賀大学は「フレキシブル・ラーニング」という取り組みを行っている。¹¹⁾ 学生は設定された課題を達成する毎に得点を重ね、得点の合計が合格に達すると単位を与えられる。学生は自由な時間と場所で課題に取り組み、通常の授業のように毎週決まった時刻に出席することを要しない。情報リテラシは学生間の実力の差が大きいため元々一斉授業が難しく、滋賀大学の取り組みは興味深い。

今後は情報リテラシ科目がUNIX系OS等の適切な教材を用いて、動作原理の概要を理解する授業に進化していくことが期待される。また、弊害の大きい「情報機器の操作」必修義務は早期に廃止されるべきと考える。

§4. まとめ

国立の教員養成系学部・大学から所在地の都道府県番号が奇数のものを抽出して、公開

教員養成系学部における「情報リテラシ教育」の現状

されているシラバス（授業計画）を調査した。その結果、高校で情報が必修化された学年が大学に入学して来たにも関わらず、2006年度および2007年度も依然として多数の大学でマイクロソフトの操作を主な内容とする情報リテラシの授業が必修で行われているということが分かった。その授業担当教員は、依然として専門が情報とかけ離れた者が数多く見受けられる。

謝辞

教職研究総合センター渡邊誠一教授の有益な示唆に感謝する。また、英文題名および英文概要に関して国際交流ユニット桑村昭ユニット長の有益な助言に感謝する。本研究は山形大学教育研究基盤校費によって行われた。

文献

- 1) 山本広志「文科系に於ける情報処理教育 — 或る私立大学の事例 —」山形大学紀要（教育科学）12（2000）357-368.
- 2) 川合慧「新教科「情報」と大学における情報教育」情報教育シンポジウム論文集 99（10）（1999）31-38.
- 3) 市川伸一「情報教育の目的と方法をめぐって」CIEC ニュースレター（16）（1999）2-7.
- 4) 山本広志「表面だけの情報教育」教育と地域の情報化を考えるシンポジウム SPER2000 in AKITA 講演概要集（2000）49.
- 5) 松浦敏雄「2000年以降の情報教育」大阪市立大学学術情報総合センター紀要 1（2000）20-25.
- 6) 山本広志「中学校技術科の教員養成と新分野「情報とコンピュータ」」日本教育大学協会2002（平成14）年度研究集会発表要旨集（2002）127-128.
- 7) 山本広志「中学校技術科およびその教員養成課程と Linux」Linux Conference 2001.
- 8) 文部省編「高等学校学習指導要領」文部省（1999）.
- 9) 日本工業規格 JIS X 0401:1973
- 10) 国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会「今後の国立の教員養成系大学学部の在り方について」文部科学省高等教育局（2001）.
- 11) 松原伸一、平井肇、近藤文良「レキシブル・ラーニング：「メディアツール活用法」の理念と授業運営」電子情報通信学会技術研究報告情報文化と倫理 99（14）（1999）23-28.

Summary

YAMAMOTO Hiroshi: Information Literacy Education in Teachers Colleges in Japan

Most colleges in Japan including teachers colleges began information literacy education in the middle of 1990s. Then a turning point came in 2006, when information literacy education became a compulsory subject in high schools. That motivated me to do research on the syllabi of the field made public in 2006 and 2007 by national teachers colleges in odd numbered prefectures in Japan. It reveals that most of these colleges still offer courses as to how to operate Microsofts taught by many professors, whose specialized fields have nothing to do with information science.